

グローバル・エイジングに対する 国際協力の現状と展望 ～誰一人取り残さない社会を目指して～

独立行政法人国際協力機構（JICA）国際協力専門員

中村 信太郎

本日のお話

1. グローバル・エイジングとは？何が課題なのか？
特に中・低所得国の課題は何か？
2. 高齢化に関しJICAはどのように協力してきたのか？
導き出された教訓は？

本日お伝えしたいこと

1. 中・低所得地域は今後30年の間に急速に高齢化する。特にアジアと中南米。アフリカでも高齢者数は大きく増える。
2. 高齢化のインパクトは社会のあらゆる側面に及ぶ。高齢化を前提として、社会を変えていくことが重要。
3. 高齢化社会/高齢社会に関する協力に当たっては、相手国の文脈をよく知ることが重要。対話を通じた伴走型の支援を。

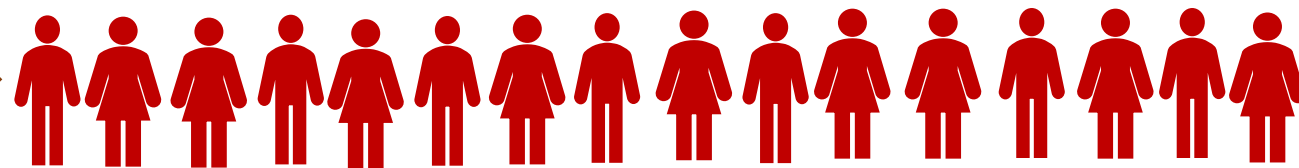
グローバル・エイジング

今後30年間の（ほぼ確実な）変化

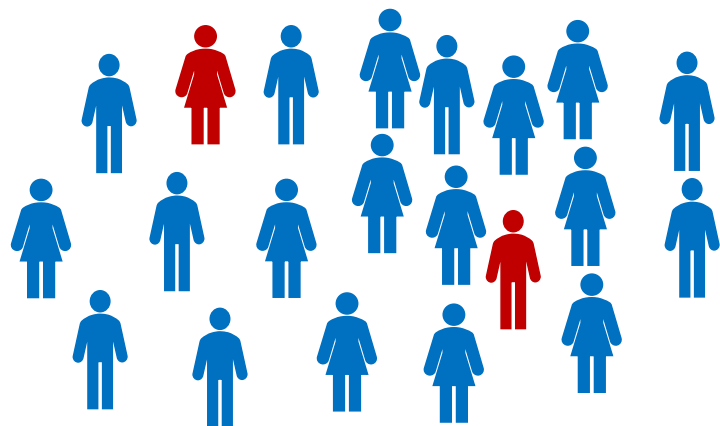
7.3億人



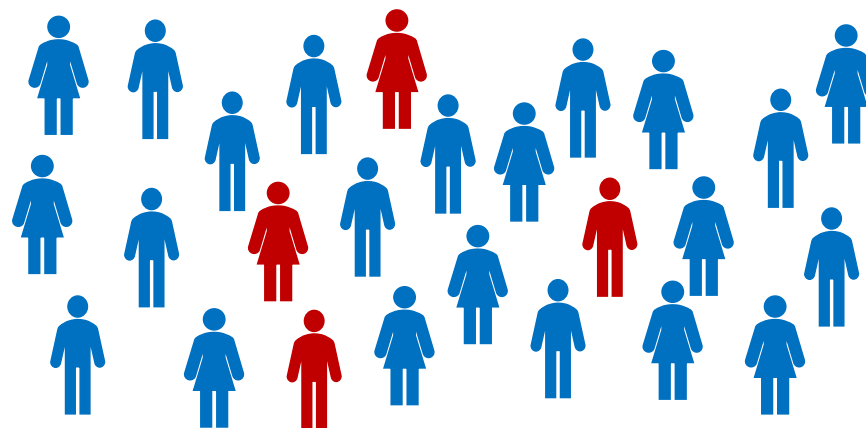
15.5億人



9.3%

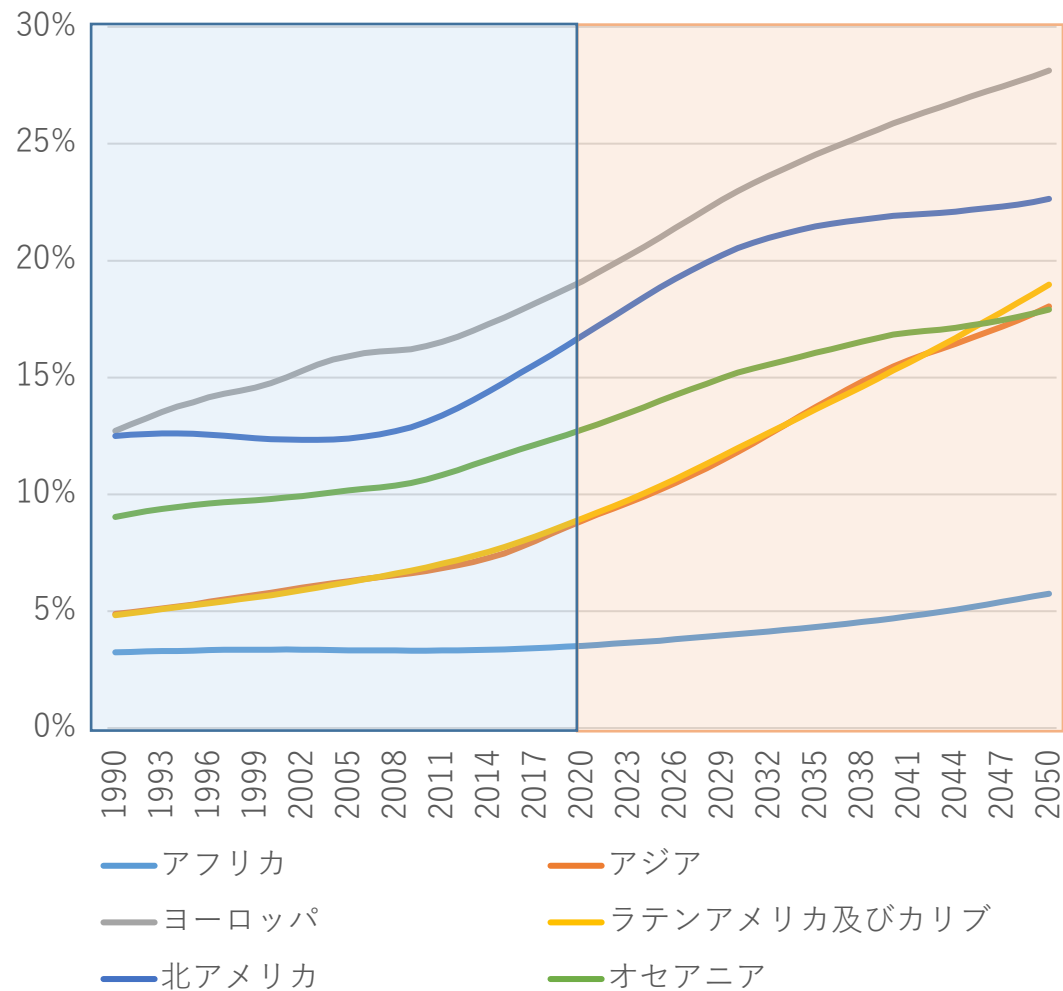


15.9%

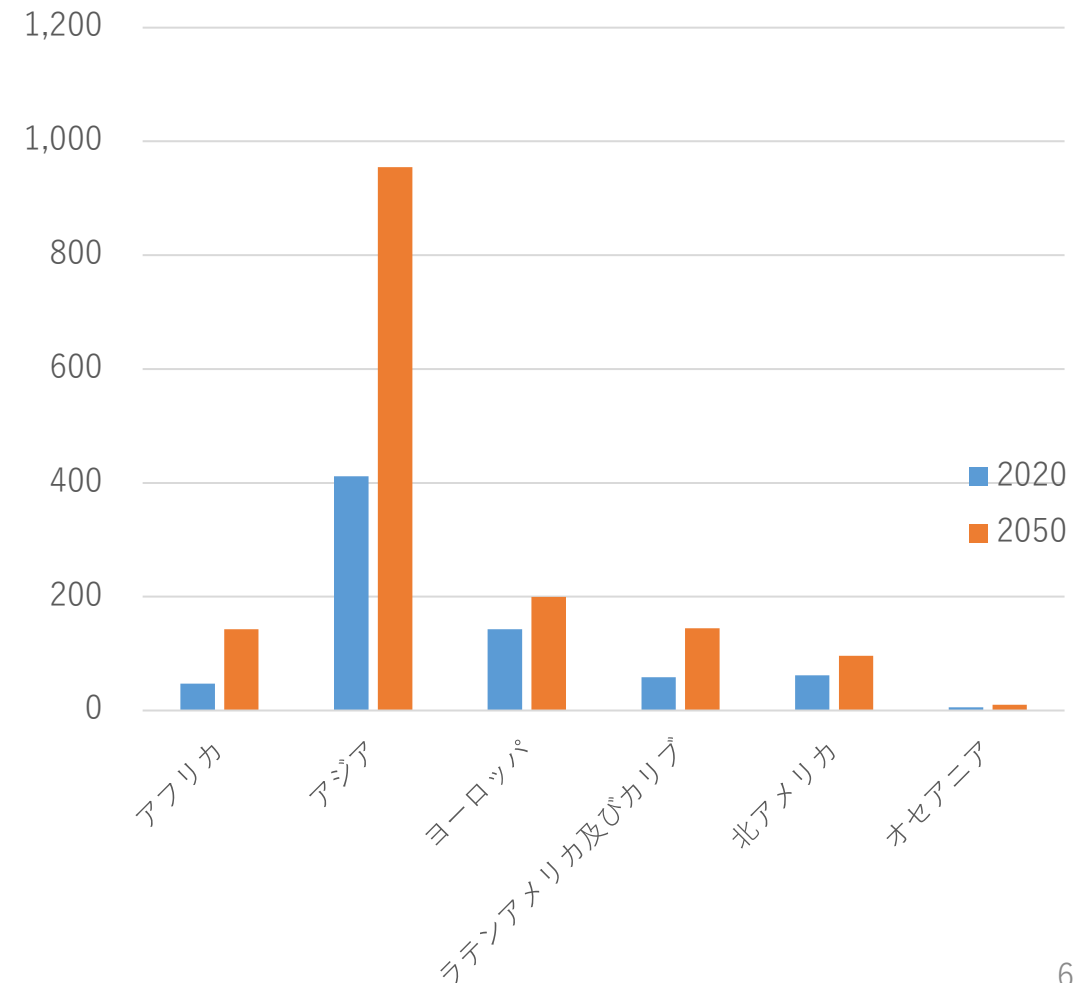


地域による違い

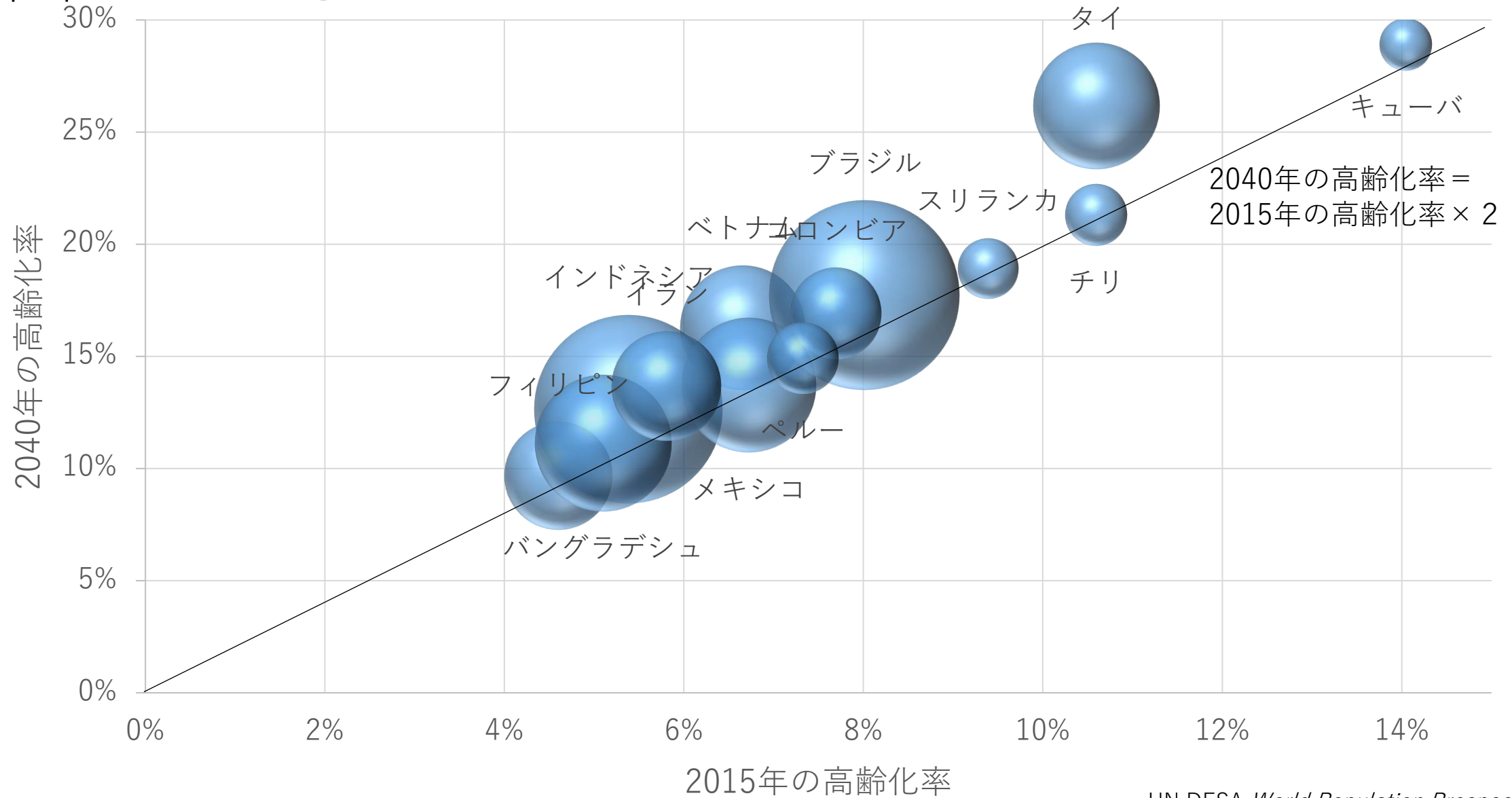
65歳以上人口比率（1990-2050）



65歳以上人口（2020年及び2050年）
（百万人）



国ごとの予測



何が課題なのか？

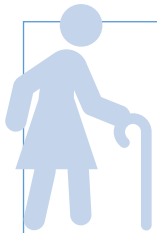
医療、介護：高齢者の疾病、諸機能の変化



非感染性疾患
(NCD)



複数の疾病 (Co-morbidity)



運動機能の低下



感覚機能の低下



認知機能の低下

医療・介護：求められる変容



病院ベースの医療から
地域ベースの医療・介護へ



治す医療から、治し
支える医療・介護へ



医療と介護の人材、
インフォーマル介護
者へのサポート

中・低所得国の課題



医療へのアクセスと
医療機関の連携



医療と介護の人材、
インフォーマル介護
者へのサポート



医療従事者のマイン
ドセット

高齢化と社会保障

人々の課題



高齢者、特に
高齢女性の貧
困



高齢者の社会
的孤立



医療や介護、
所得保障の需
要増大



制度の持続性、
税制を含む公
共財政への影
響

社会保障：中・低所得国の制度的課題



UHC、高齢者の生計
維持の制度づくり



社会保障プログラム
費用の調達



制度の持続性

高齢化と都市・コミュニティ



都市のデザイン：街づくりへの参画、都市インフラ、交通機関、情報へのアクセシビリティ



住宅：住まいの確保、多様な住宅が選択できる



社会的包摂：決定への参画、就労へのアクセス、住民によるサポート、居場所づくり



エイジズムの打破：高齢者をステレオタイプ化しない

質問とコメント



JICAのタイ高齢化協力とは？
得られた教訓は？

タイでの高齢化技術協力プロジェクト： 段階的なアプローチ

CTOPプロジェクト (2007-2011)

- コミュニティでの保健医療と福祉サービスの連携、公的機関と住民の連携

LTOPプロジェクト (2013-2017)

- 在宅の要介護、要支援高齢者に、ケアマネジメントに基づくサービス

S-TOPプロジェクト (2017-2022)

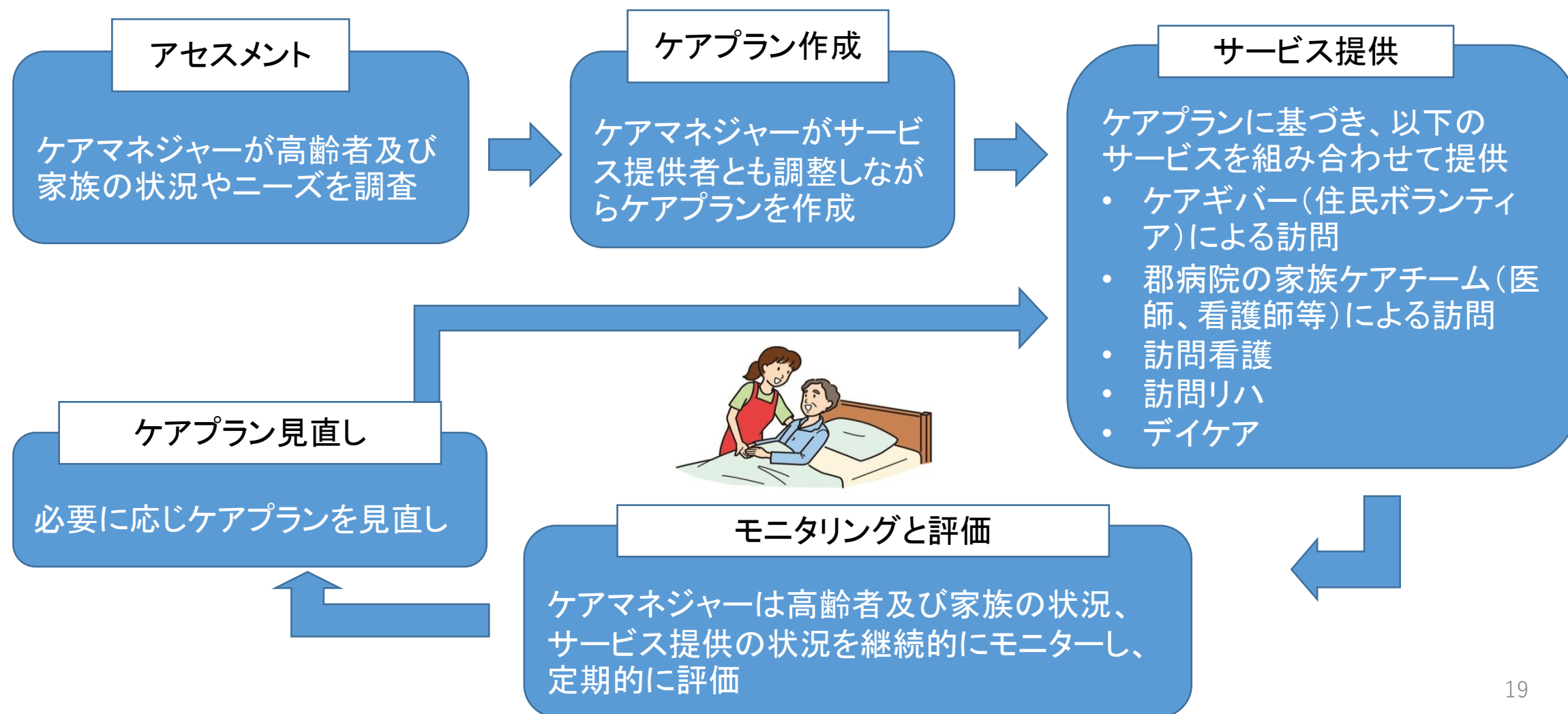
- 急性期から回復期、慢性期まで切れ目のないサービス

CTOPプロジェクトで導入したワンストップ・ モバイル・サービス（タイ、スラタニ県）



Photo: CTOP project

LTOPプロジェクトでのケアマネジメント

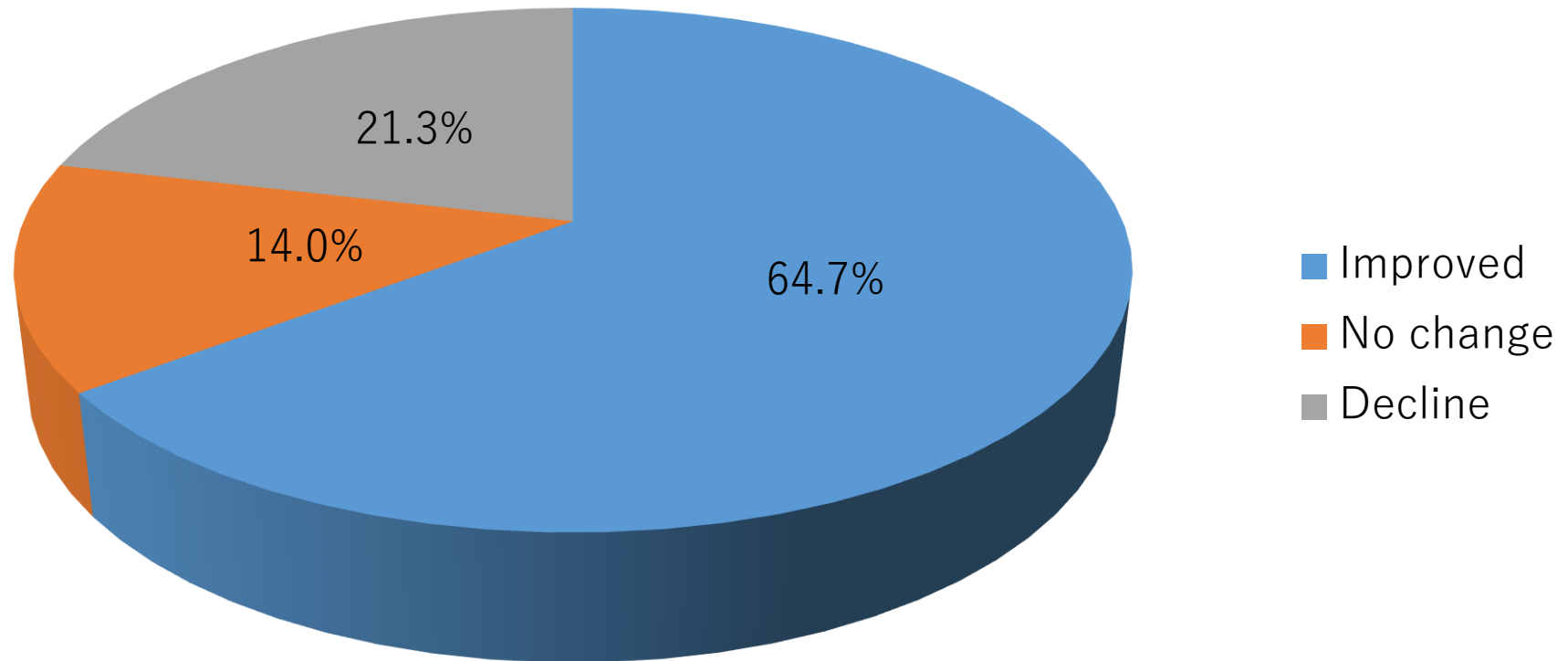


日本のケアマネジャーによる現地研修



約 65%の対象高齢者についてADLが向上

Changes in ADL (From Baseline survey to the recent monitoring survey) (n=136)



プロジェクトの背景：タイの文脈



サービス

- 公的部門中心の医療提供体制
- 頑健な公衆衛生
- 政府主導のボランティア・プログラム



政府の戦略

- 高齢者国家計画：地域ベースのアプローチ、部門間連携
- 高齢者長期ケア戦略
- 国内事例の研究



政策ツール

- UCスキーム
- 保健課題ごとに自治体に置かれた基金
- 国民IDと住民登録システム

プロジェクトから得られた教訓

JICAへの 教訓



1. プロジェクト・デザインに
当たり、保健医療と社会サービ
スの状況を研究する
2. プロジェクト・デザインに
当たり、各関係機関の権限を研
究する

他の中・低所得国 への教訓



1. 高齢化に戦略的に取り組む
2. プロジェクト成果を指標に組み込む
3. 他国の経験は自国の文脈に合わせアレンジ
4. 諸省庁、インフォーマルな部門と協働
5. 複数の協力を組み入れる

JICAの高齢化協力：多様なアクターとの協働

ボランティア

- ・ 高齢者福祉
- ・ リハビリ、など



民間企業

- ・ 介護予防プログラム(タイ)
- ・ 見守りシステム(タイ)
- ・ 日本式介護学校・介護センター(ベトナム)、など

地方自治体

- ・ 介護予防推進(タイ、バンコク)
- ・ 町ぐるみ高齢者ケア(タイ、サンスク市)

NGO

- ・ NCD対策と連携した高齢者ケア政策(スリランカ)
- ・ 住民主体の介護予防(ベトナム)、など

国際機関

- ・ ベトナム高齢化レポート作成(世界銀行)、など



日本に求められる支援は？



先達としての日本：経験を共有する



近未来としての日本：イノベイティブな取り組みを共有する



課題に直面する日本：互いの課題解決に向けて新たなアイデアを生み出す

質問とコメント

